

【研究概要】

目的：当院と参加施設において、膵腫瘍に対して EUS-TA を行うも診断がつかず、再度 EUS-TA が必要となった患者の現状調査を行い、診断率、処置内容について詳細に探索することとし、①診断正診率、②感度・特異度、③迅速細胞診 (ROSE: rapid on-site cytologic evaluation or MOSE: macroscopic on-site quality evaluation) の必要性の有無、④診断難渋症例の因子、⑤処置の偶発症、⑥手技的成功率、⑦生存期間について解明する。